



●防災情報入手手段のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
緊急防災情報告知システム 屋外スピーカー	○全国瞬時警報システム(J-ALERT)によって、瞬時に放送可能。 ○何もしなくても、自動で情報が入ってくる。	●大雨や強風によって、内容が聞こえない場合がある。 ●スピードを重視するため、詳細な情報までは発信できない。 ●最近では、二重サッシなど気密性の高い家が普及し、聞こえにくくなっている。
防災ラジオ	○屋外スピーカーと比較して明瞭な音で聞こえる。 ○何もしなくても、自動で情報が入ってくる。	●購入しなければならない。(4,875円) ●屋外スピーカーと同様の音声であるため、詳細な情報までは発信出来ない。
防災メール	○詳細な情報まで入手することが可能。 ○情報が文字で残るため、何度も確認が可能。	●自分自身、インターネットで情報を受けるための行動をとらなければならない。 ●七尾のケーブルテレビに加入しなければならない。(有料)
ホームページ		
フェイスブック		
ツイッター		
ケーブルテレビ		●七尾のケーブルテレビに加入しなければならない。(有料)
広報車	○屋外スピーカー、防災ラジオでカバー出来ない地域で放送可能。	●広報車の発信まで時間を要する。 ●道路状況で、広報車が行けない場合がある。

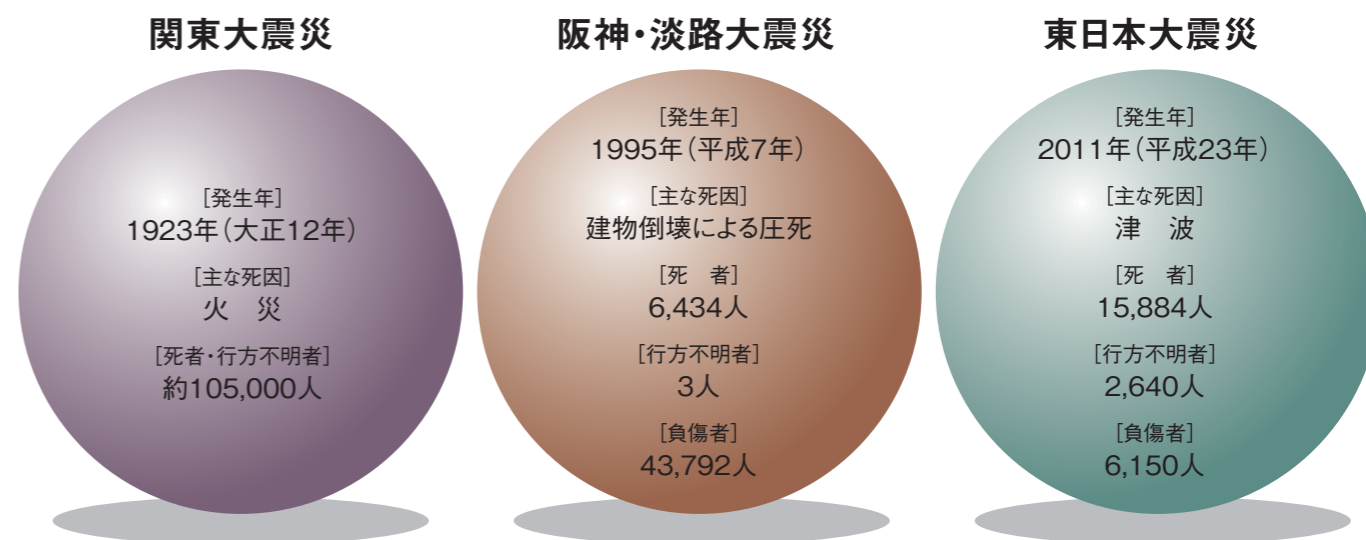
情報の収集

七尾市では、次のような情報伝達媒体を活用し、皆さんが多重的に情報を受け取ることができるような情報ツールを整備しています。

- ・緊急防災情報告知システム、防災ラジオ、防災メール、ホームページ、フェイスブック、ツイッター、ケーブルテレビ
- ・他に、テレビ、ラジオ、エリアメールでも情報が発信されます。

「いざ」という時のために、
普段から備えておきましょう。「個人ができる備え」

日本で発生した大震災



あれから3年。

東日本大震災から3年が経過しようとしています。東日本大震災を含めた過去の大震災を教訓に、今一度、災害に対しての「日頃からの備え」を見直してみましょう。

まずは、自分自身が生き残るこ

とを考えましょう。あなたが生き残れば、あなたの家族や近所、町会の人への援助の輪が広がり、一人でも多くの命が助かる可能性が高まります。

七尾市の活断層
邑知潟断層帯

- ・川原町付近から中能登町、羽咋市を通じてかほく市まで至る断層帯。(全長約44キロメートル)
- ・本断層帯は、逆断層で、断層の南東側が北西側に対して相対的に隆起。(北大呑、南大呑、氷見市、高岡市、富山市は被害甚大)
- ・地震発生の可能性として、マグニチュード7・6程度、30年以内の発生する確率が2%程度と予想されていますが、国の主な活断層の中では発生確率がやや高いグループに属しています。
- ※阪神・淡路大震災の発生直前の確立値は0・02〜8%

●七尾市被害予想(県)

独立行政法人防災科学技術研究所、石川県

建物全壊	2,509棟
炎上出火件数	59件
延焼棟数	441棟
死者数	420人
負傷者数	952人
要救出者数	339人
避難者数	12,121人

避難所の確認

自然災害は、昼夜を問わず、いつ発生するか分かりません。日中、家族が離れている時に、災害が発生

することを予測して、集まる避難所をあらかじめ、家族と決めておきましょう。

非常用持出袋

家族全員分の非常用持出袋を準備していますか？飲料水の持ち運びは大変ですが、1リットルのペットボトルを500ミリリットル2本に分けて、ズボンの両ポケットに入れて持って逃げるなどの工夫をすることも大切です。

家具転倒防止

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの人が倒れてきた家具の下敷きになって亡くなった。大げなをしたりしました。大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒防止を講じておく必要があります。



家族3日分の飲食物

- 家具が転倒しないように、家具は壁に固定
- 寝室や子ども部屋にはできるだけ家具を置かない
- 手の届くところに懐中電灯、スリッパ、笛を置いておく

